

キャンベラ大学 留学体験報告書

留学・研修等時の 本学の所属、氏名	課程 共生社会教育 専攻・国際共生教育コース 学年 4年 氏名 清水 麻衣
留学・研修等の期間	2009年 7月 11日 ～ 2010年 6月 5日
留学・研修等の国、大学名	オーストラリア キャンベラ大学
留学・研修等の種類	交換留学
奨学金名（金額）	日本学生支援機構第二種奨学金（短期留学）月12万 ※要返還
留学・研修等の目的・動機	英語力向上、異文化交流
求められた語学力 及び具体的な準備内容	TOEFL IBT 46～ ELICOS入学 大学2年時 キャンベラ大学短期語学研修(1ヶ月)に参加 3年時 キャンベラ大学からの交換留学生のtutor (週に一度勉強会) 3年時 3度TOEFL受験
留学・研修等の選考方法	学内選考（願書・英文志望動機・面接）
情報収集方法	留学説明会 先生や先輩方からのお話 キャンベラ大学から来ている交換留学生
語学クラスの状況 (人数、内容等)	ELICOSのEAP(English Access Program)にて学部入学を目指す留学生15人前後で、学部で必要なスキル(Reading, Listening, Speaking, Writing)を徹底的に学習した。PresentationやEssay writingは特に学部での授業の基礎となり、非常に役に立った。
履修科目・内容(学部)	International Studies (Cultures & Diversity) Global Ethical Challenges English Grammar Chinese 1a (Language & Culture)
先方大学等の 単位認定状況	すべて習得
本学での単位認定状況	
学年歴 (学期・試験・休暇等)	7/10 渡豪 7/23～7/24 ELICOS Orientation 7/27～12/18 ELICOS (20週) ※ELICOSのTerm A & Bをパスしさえすれば、UCの学部での授業を受ける資格を得られる。

	<p>12/19～1/31 夏休み (1ヶ月半)</p> <p>2/1～2/5 UC Orientation</p> <p>2/8～5/14 UC (14週)</p> <p>5/17～6/4 exam week (3週間)</p> <p>6/5 帰国</p>
履修に関する留学先大学のサポート (チューター等)	<p>Personal Adviserによるサポート(交換留学生のみ)</p> <p>Academic Skills Programによるアドバイス (専門家によるエッセイ添削・エッセイストラクチャーアドバイス等)</p> <p>Japan ClubによるネイティブのStudy Buddy (英語・日本語をお互いに教え合う制度)</p>
学習環境 (図書館等)	<p>図書館：8:30～22:00まで。(PC有)</p> <p>コンピューター教室：24時間。</p>
居住環境	<p>寮(International House) AU\$165.50/week</p> <p>前半：オーストラリア人(男:2人, 女:1人)、中国人(男1人, 女2人、日本人(私)</p> <p>後半:中国人(男1人, 女5人)、日本人(私)</p> <p>合計7人でキッチンやbath roomなどをシェア。</p> <p>※ 寮は6種類あり、値段もAU\$133.50～233.00と幅広い。 シェアハウスやホームステイも可能。</p>
生活費 (月額)	<p>4万円前後。(寮費は除く)</p> <p>食費AU\$150～300(月によるが、イベントがある時期や来豪した頃はなにかとお金がかかる)</p> <p>インターネット料金が月に2000～5000円別にかかる。</p>

物価 (食費、住居費等日本の物価と比較して)	<p>物価は高め。e.g. 水(600ml AU\$3)</p> <p>食費は自炊すればいくらでも節約できる。</p> <p>Asian shopでほとんどの日本食用の材料は手に入るが、かなり高い。</p> <p>大学の寮費は高い(約AU\$600～700)が、on campusなので5分程度で大学に着き、夜遅くまで大学で勉強できるため、非常に勉強がはかどり便利。</p> <p>バスなどの公共料金は安い(Civicまで片道AU\$1.9, Sydneyまで片道AU\$15, Melbourneまで片道AU\$50)。</p>
留学・研修等の必要総額 (渡航費、生活費を含む)	<p>120万円 (旅行費は除く)</p> <p>生活費：50万</p> <p>寮費：55万</p> <p>渡航費：往復15万円</p> <p>往路：アジアナ航空、Qantas航空 Fukuoka-Seoul, Seoul-Sydney, Sydney-Canberra</p> <p>帰路：Jetstar航空、全日空 Sydney-Osaka, Osaka-Fukuoka</p>

治安状況	だいたい日本と同じで特別悪くはないが、夜1人で出歩くのは危険。 盗難には要注意!!寮でも鍵はこまめに閉めて!!
保険	OSHC(Overseas Health Care : ビザ取得時に必要な保険)のみ
その他注意すべき事項	<p>ビザ取得はできるだけ早めに。</p> <p>健康診断は特定指定医の元行わなければならないため、時間に余裕を持って、eCOE(入学証明書)が届き次第手続きに取り組むと良い。</p> <p>留学先でも使えるキャッシュカード(新生銀行やCity Bankなど)やクレジットカードをあらかじめつくっておくと、送金や寮費の支払いなど便利。</p> <p>Skypeはオンラインで国際電話やチャットが無料ででき、家族や友達と連絡取るのに非常に役に立つ。</p> <p>Facebook(social network service)は友達を増やすだけでなく、名前を覚えるのにも便利。</p> <p>授業や向こうでの生活における情報をできるだけ多く得られるよう、先輩や交換留学生と情報交換すると安心。</p> <p>日本の使い慣れている文具や化粧品は持参すると良い。</p> <p>紫外線がすごく強いので、日焼け止めやサングラスは必須。</p>

留学・語学研修等体験レポート（自由記述）

私は、2009年6月よりオーストラリアのキャンベラ大学に交換留学生として、約11ヶ月間滞在しました。以前に1ヶ月間、キャンベラでの短期語学研修を経て、もっと長期間留学して自分の英語力を伸ばしたい、異文化交流を通じて自分自身成長したい、と思うようになりました。キャンベラは今まで見たことがない程青々とした空で、キャンパスにはカンガルーやコアラがいて、町の人々は優しくてのんびり暮らしていて、またここに戻ってきたいといつしか考えるようになりました。留学生生活は毎日新しいことの発見の連続で、さまざまな国の友達ができ、日本ではなかなか経験できない貴重なものばかりでした。私にとって留学は、自分自身と向き合い、成長する大きなきっかけとなりました。

まず、留学に至るまでが私にとって大きな挑戦でした。これを読んでいるみなさんは、留学に興味がありながら、教員採用試験や就職活動、TOEFLや金銭面などさまざまな問題を抱えていることかと思います。私も二年前、この冊子を読み、留学に向ける思いを実現させたい気持ちを再確認したと同時に、TOEFLや卒業延期など不安な気持ちを拭えずにいたことを思い出します。英語は子どもの頃から祖母の影響で大好きだったのですが、自分の英語に自信を持てたことは一度もなく、このままでは自分のしたい仕事なんて見つからない、と思い、自分自身に自信が持てるように変わりたいと、留学の道を目指す決意をしました。TOEFLに挑戦しようと教材を手にとると、4技能を統合的に測る試験に心が折れそうになる人も多いと思いますが、TOEFLでやったことは留学生活（特に大学）での基礎となり、必ず生きてきます。日本にいながら留学中のように英語に触れることはかなり困難なのが現実なのですが、TOEFLはその予行練習のようなものです。ハイスコアを取ることはもちろん大前提の目標なのですが、スコアばかりに着目するとプレッシャーに負けてしまいそうになるので、留学という夢の準備を万全に行うための、とても有効な手段として捉えてもらえると気持ちが楽かと思えます。私は満足いくスコアを取ることはできませんでしたが、英文の願書や面接の準備等、諦めずに最後まで挑戦し続けた結果、留学の道へ進めたのだと思います。

次に、実際に留学して不安に思うことは、やはり自分の英語でコミュニケーションを積極的にして友達をつくれるのか、果たして自分の英語は通じるのか、ちゃんと授業についていけるのだろうか、という異国の地で第二言語を用いて適応していけるのだろうか、ということだと思えます。世界中には、さまざまな言語が存在し、第二言語を学ぶ人々がいて、それぞれ異なったレベルにいます。留学中に、ネイティブのスピードについていけず輪に入れなかったり、周りの留学生と比較して劣等感を感じたり、落ち込むことも多々あると思いますが、問題はどれだけ成長できるか、だと思います。語学に関しては、スタートした段階も今まで努力した証でありもちろん評価すべき点ですが、留学中はむしろ伸び率に目を向けることが大事だと思います。相手と比較して自分や他人を否定するのではなく、自分自信に目を向けて、自身の成長を認めてあげることによって初めて、周りの人の努力や実績を認めてあげることができると思います。

また、学部での専門的授業を通して、自分の興味のある分野をより深く掘り下げることができたことも私にとって大きな収穫でした。学部の授業は実際に一般の大学生との授業に参加するため、精神的にかなり苦悩したのは言うまでもなく、その

課題もELICOSとは比べ物になりませんでした。予習しなければ自分の意見を言う勇氣も持てないため、毎日すべきことが山のようにあり、essayのreferenceのためのreadingの量はもちろん今まで経験したことがない程でしたが、留学を志す人なら、決して乗り越えられない寮ではありません。これほど一つのことについて毎日奮闘した時期はありませんが、何よりその過程で得た知識や洞察力は、異なった考え方を持つ人とのディズカッションにより、より幅広い視野を得ることができました。学期末にできる限りの力を注いだessayは、論文を踏まえ多面的に考え抜いた上で、自分の意見を述べており、留学時には考えられない程の成長を自分自身感じました。

成長とは、語学に限ったことではありません。留学していると、嫌でも自分の欠点と向き合う機会があります。私の場合、人見知りで消極的で、人前で話をしたり自分の意見を強く押し進めたりすることが苦手な性格でした。もちろん完全に変えることはできませんが、さまざまな局面で、ネイティブであろうと積極的に声をかけなければいけなかったり、嫌なことをはっきりと断ったり、相手の意見を尊重しながら自分の意見をより優位に立たせるよう議論を行ったり、自分が苦手だったために日本では極力避けてきたことと向き合わなければなりません。強く言えない自分に腹が立ってしかたないときや、授業でのプレゼンで不安で押しつぶされそうなとき、常に心の支えとなってくれたのは、家族や友達でした。特に向こうで出会った友達は、同じ境遇で共感できる部分が多く、励まし合うことで自分と向き合い、成長できたことは数えきれません。一期一会とはまさにこのことで、留学中に会った世界中の友達は、一生の財産です。家族や友達に背中を押ししてもらいながら、数多くの困難を乗り越えられたのだと確信しています。

そして、留学中に近隣を旅行できることも、留学の特権だと思います。日常ではできるだけ節約をし、休みがあれば旅行を計画しました。8月には冬にもかかわらず交換留学生の友達とSurf Campに行ったり、ELICOSの中間休みでは、Brisbane, Gold Coast, Toowoomba, Moretone Island, Sydneyへ行き、コアラを抱っこしたり、イルカに餌付けしたり、夜景を見たり。1ヶ月半の夏休みでは、Melbourneに8時間夜行バスで行き、Great Ocean Roadで見たことのない程の広大な海に魅了され、その後New Zealandに2週間かけて南北両島の大自然に感動の連続でした。また、家族がCairnsに人生発の海外旅行が実現し、至福の時を共にし、学部での奮闘に向けてエネルギーの確保もできました。私の家族はその後なにかにつけ海外旅行の話をし、その笑顔を見る旅留学してよかったな、と感じます。このように、留学中の旅行は、英語を実践的に使うとてもよい場でもあるので、今後の人生の糧となる程の最高の思い出を是非つくって欲しいです。

最後に、留学を夢で終わらせないために、諦めないで希望を持って一步踏み出す、そんな勇氣を持って欲しいなと思います。それさえあれば、あとは自ずとついてくるものだと思います。皆さんの一步の先には、無限の可能性があり、多くの困難を乗り越えた先には無数の出逢いや感動があります。留学に限らず、自分の夢や目標に向かって努力している人は、自分自身を大きく成長させ、キラキラ輝くことができるように思います。皆さんが、より充実した大学生活を送られるよう、心から応援しています。

キャンベラ大学 留学体験報告書

留学・研修等時の 本学の所属、氏名	課程 中等教育 4 学年 専攻・コース 英語科 氏名 磯部 司
留学・研修等の期間	2008 年 8 月 20 日 ~ 2009 年 8 月 20 日
留学・研修等の国、大学名	オーストラリア国立キャンベラ大学
留学・研修等の種類	交換留学
奨学金名（金額）	無し
留学・研修等の目的・動機	異文化交流への興味と、英語を母国語とする国での生活を体験してみたかった。
求められた語学力 及び具体的な準備内容	TOEFL 及び IELTSなどの語学能力の証明
留学・研修等の選考方法	TOEFL
情報収集方法	過去に同じようにキャンベラに行った先輩方からの話
語学クラスの状況 （人数、内容等）	大体 1 クラスは 10～15 人構成で、主にアジア圏（日本、中国、ベトナムなど）からの留学生が多い。
履修科目・内容	① English Grammar 主に、普段native speakerが話す英語の文法の正確性についての追及。 ② Language, cultures and communication 言語とその国の文化は相互に深い関わりを持つという観点から、各国におけるコミュニケーション法などを検証していく。 ③ Introduction to Journalism 主にマスコミの存在意義やジャーナリズムに関わる基本理念を教える講義中心。 ④ Influence, Belief and argument 政治家のスピーチや、大衆マスメディアにおける報道が視聴者に与える影響を、そのスピーチの技法に焦点を当てることで研究していく。
先方大学等の 単位認定状況	優 1 つ 可 3 つ
本学での単位認定状況	120 単位（現時点で）

学年歴 (学期・試験・休暇等)	4年
履修に関する留学先大学のサポート (チューター等)	留学生担当のアドバイザーが二人。とても良心的で真摯に対応してくれる。
学習環境 (図書館等)	充実している。図書館の他に、24時間開放をしているパソコン室がある。
居住環境	寮 (僕の場合1フロア12人構成)
生活費 (月額)	約 8万円 (個人差がある)

物価 (食費、住居費等 日本の物価と比較して)	大体今の通貨レート (1\$ = 80円) くらいで日本の物価とほぼ同じ。
留学・研修等の必要総額 (渡航費、生活費を含む)	150万円 (個人差あり)
治安状況	比較的安全
保険	学校の保険だけで、簡単な診療は受けられる。本格的な診療や手術、物品損失などの保険が必要な場合は、自分で民間会社と契約するしかない。(約10万円くらい)
その他注意すべき事項	学校の寮のスタッフは適当なので、自分でしっかり契約内容や家賃の引き落としを管理していないと、損をする。